



三内丸山通信

今年度の発掘調査終了!

三内丸山遺跡では、集落の全体像解明と遺跡の保存・活用を進めるため、毎年発掘調査を行っています。令和6年度は、第2号道路跡北端周辺で第49次調査を6月3日～10月31日に実施しました。

第49次調査の成果

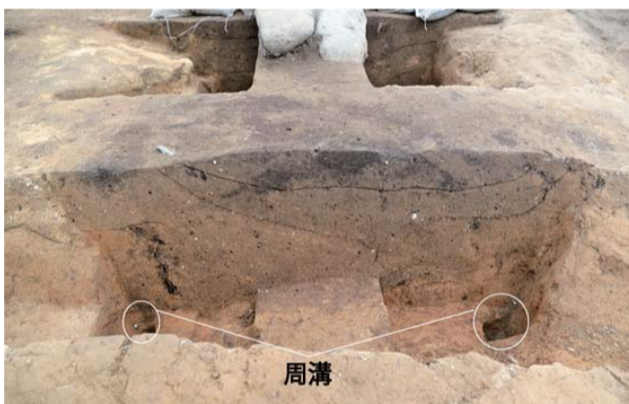
これまでの調査で土坑墓が多数見つかった第2号道路跡北端周辺で実施し、Aトレンチでは土坑墓の時期、構造、配置を、B・C・Dトレンチでは第2号道路



【写真1 第49次調査位置（北から撮影）】

跡北西部と東部における遺構の広がり確かめる調査を行いました（写真1）。

Aトレンチでは西から東へ向かって下る斜面地に縄文時代中期前葉～後葉の土坑墓などの遺構が多数確認されています。検出した遺



【写真2 第1099号土坑 周溝検出状況】

構は土坑墓19基、埋設土器3基、性格不明遺構1基です。このうち7基の土坑墓について詳しい調査を実施しました。第1099号土坑は、墓の底面が平坦に整えられていた可能性があります。また、底面には壁に沿うように溝が巡る「周溝」が確認されました（写真2）。



【写真3 Dトレンチ 廃棄した土の堆積状況（白線内が廃棄層）】

Bトレンチは、過去の調査で掘立柱建物跡の柱穴が集中して見つかった地点です。縄文時代中期の地層まで土を掘り下げましたが、遺構が確認されませんでした。C・Dトレンチでは第2号道路跡の東側の遺構の分布状況を確認するために、縄文時代中期の地層まで掘り下げましたが、遺構は確認されませんでした。また、C・Dトレンチともに、トレンチの東側に大量の土が廃棄されていることを確認しました（写真3）。Dトレンチの廃棄層内には遺物は多く含まれていませんでしたが、Cトレンチでは土器や石器の他に、焼骨片や焼土が確認され、北盛土や南盛土と同じ状況であることが想定されます。

企画展「衣食住から探る縄文人の暮らし」開催中

この企画展では、三内丸山遺跡の発掘調査で出土した衣食住に関わる出土品を多数展示しています。それらを通じて、当時の人々がどのような暮らしをしていたのかに迫ります。

会場内の体験コーナーでは、出土品に触れる体験のほか、石器で動物の皮を切ったり、布を編んだりすることができます。この機会に当時の暮らしについて考えていただければと思います。



【展示の様子】

会場：三内丸山センター企画展示室
会期：令和7年3月9日(日)まで
観覧時間：午前9時～午後5時
※入場は午後4時30分まで
休館日：12月23日(月)、12月30日(月)～1月1日(水)、1月27日(月)、2月25日(火)
観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます。
一般410円(330円)、高校・大学生200円(160円)
()内は20名以上の団体、中学生以下無料



祝 見学者950万人達成

令和6年11月5日(火)、三内丸山遺跡の見学者数が950万人を達成し、記念セレモニーを行いました。

950万人目となった石津陽(いしづ あきら)さんと三内丸山遺跡センター岡田所長、三内丸山応援隊佐藤代表理事の3名がお祝いのくす玉を割り、石津さんには950万人の記念証と記念品が贈呈されました。

石津さんは、「まさか自分が950万人目を選ばれるとは思っていなかった」と嬉しそうに話していました。今後もより多くの人に来てもらえるよう面白い企画を考



【記念セレモニーの様子】

え、縄文に親しんでもらえるようなサービスの提供を心掛けて参りますので、皆様のご来館を心からお待ちしております。

さんまるJOMONの日を開催しました!

令和6年9月14日(土)16日(月・祝)の3日間、さんまるJOMONの日を開催し、約7,300人の方が来館しました。

「さんまるの食を体感しよう」でのクルミ割り体験や、本イベント限定の「縄文パノラマビューー!」などのほか、三内丸山遺跡競技大会「さんまるじよもりんぴっく」での「さんまる障害物競走」では、参加者の小学生が頑張った！

ミッションをクリアしていただきました!
令和7年2月1日(土)、2日(日)には、大人気の「大型すべり台」や「スノーハイ

ク」などのイベントを実施する「三内丸山縄文冬祭り」を開催予定ですので、皆様、ぜひお越しください!



【じよもりんぴっくの様子】

令和6年度の史跡整備

縄文時代の「ムラ」のたたずまいを体感・体験できる場として、毎年史跡整備を実施しています。

令和6年度は、遺跡の外周にある急傾斜地の一部について、崩落を防止するための補強工事を実施しました。

また、露出遺構の保存公開施設である覆屋を結ぶ園路や大人の墓等の立体表示を結ぶ園路についても改修工事を行いました。改修した園路は、舗装に木材チップを混ぜ合わせており、その高いクッション

性から長時間歩行しても疲れにくく、柔らかな歩き心地が特徴です。より快適な見学環境の実現のため、これからも施設の改修を進めて参ります。



【改修工事を終えた園路】

令和6年4月オープン! あおもり縄文ステーションじよもじよも

「あおもり縄文ステーションじよもじよも」は、世界遺産になった青森の縄文遺跡群を楽しく学ぶことができる施設です。

1年を通してさまざまなイベントやワークショップも実施していますので、皆様、ぜひお越しください!

施設の一部を紹介するよ!



縄文遺跡群公式キャラクター「もんぐる」

○JOMONムラの暮らしコーナー

縄文時代の四季や生活の様子がよくわかる模型を展示しています。



○JOMON映像コーナー

縄文時代の動物と同じ空間にいるような体験ができるAR映像等を上映しています。



○JOMONわくわくフィールド

縄文服の着用や土器パズル、縄文時代の動物の積み木など遊びながら縄文を学ぶことができます。



縄文のムラづくり体験

「縄文のムラづくり体験」では樹皮葺き屋根の竪穴建物の解体・組立体験を実施しました。



【体験の様子】

参加者は皆で協力しながら、木の伐採や加工、材料の運搬や設置などを行い、縄文人の知恵や技術について理解を深めることができました。

特別展

「海がむすぶ縄文」を開催しました

令和6年7月12日から9月23日まで、三内丸山遺跡センター15周年記念特別展第2部「海がむすぶ縄文―津軽海峡と三内丸山―」を開催しました。

この特別展では、津軽海峡の両岸に位置する青森県と北海道の縄文遺跡から出土した資料を約170点展示し、海峡を介した様々な交流・交易や、両地域のむすびつきについて紹介しました。

来場された方々は、形や文様などの特徴がよく似た土器や土偶、遠方から持ち運ばれた石器などを大変興味深そう

に観覧されていました。また、特別展のギャラリートークや関連講座、ものづくり体験を実施し、多くの方々にご参加いただきました。



【展示の様子】